



脱炭素

Carbon Neutral



建築

Architecture

2022 Facilitator Workshop Report

●報告の流れ

- ① 脱炭素×建築チームについて
- ② 地球温暖化対策室のニーズ⇒WSの設計
- ③ WSで得られた成果
- ④ 地球温暖化対策室への提言
- ⑤ 脱炭素×建築チームの宣言

●報告の流れ

- ① 脱炭素×建築チームについて
- ② 地球温暖化対策室のニーズ⇒WSの設計
- ③ WSで得られた成果
- ④ 地球温暖化対策室への提言
- ⑤ 脱炭素×建築チームの宣言

① 脱炭素 × 建築チームについて

- ・ 8/17チーム分けの日、たまたま建築職のメンバーが集まった。
- ・ 「脱炭素」という大きなテーマを 「建築」という切り口で考えてみようということで対話を始めました。

脱炭素 × 建築
Carbon Neutral × *Architecture*

①スタート時点の問題意識

- 衣食住の「住（建築）」について手軽に取組みにくい。
- ZEHのみでなく、都市や景観など「京都の文脈」を踏まえた豊かな暮らし方を考える必要があるのではないか。

●報告の流れ

- ① 脱炭素×建築チームについて
- ② 地球温暖化対策室のニーズ⇒WSの設計
- ③ WSで得られた成果
- ④ 地球温暖化対策室への提言
- ⑤ 脱炭素×建築チームの宣言

②地球温暖化対策室のニーズ

1. 市民が脱炭素を「自分ごと」と捉えるアイデアがほしい

2. アクションリストの充実＋実践を促す仕掛けがほしい

② ニーズへの所感

1. 市民が脱炭素を「自分ごと」と捉えるアイデアがほしい

⇒「きっかけ」をどうデザインするかがポイントではないか？

き

2. アクションリストの充実＋実践を促す仕掛けがほしい

⇒リストの内容より、「脱炭素」というすぐに答えの出ない問題に対して市民が考え続ける「プロセス」やリストという「場」にこそ価値があるのでは？

プ

⇒専門知識を持っていて実践力が高い人と、そうでない人という「ステークホルダー間の交流機会」がそもそも少ないのではないか？

交

② ニーズ ⇒ 所感 ⇒ WSのねらい

【WSのねらい】

1. ステークホルダー間の交流機会をつくること

き

交

2. 参加者に小さな変化を起こすこと

き

プ

3. 『2030年のアクションリスト』のブラッシュアップ

②ねらい⇒問いへの変換

Q1：「ていねい」「スマート」「結う」暮らしのどれに共感？

Q2：賃貸物件の暮らしのなかで、脱炭素的に「だめだな」と思うこと+良くするアイデア

Q3：脱炭素な暮らしに向けて、住まいになにか追加するなら？

Q4：「脱炭素ライフな賃貸物件」の入居者募集チラシを作成

●考える「きっかけ」として。直感で
●自分の暮らしを見つめ直す機会として。

●脱炭素ライフを妄想してみる。

●多様なステークホルダーで、妄想をカタチにしてみる。

●報告の流れ

- ① 脱炭素×建築チームについて
- ② 地球温暖化対策室のニーズ⇒WSの設計
- ③ **WSで得られた成果**
- ④ 地球温暖化対策室への提言
- ⑤ 脱炭素×建築チームの宣言

③WSの開催概要

賃貸選びのポイントに「脱炭素」の視点を加えてみませんか？
ー“脱炭素な住まい方”を考える市民ワークショップー

日時：2022.11.22 13:30-15:30

場所：京都御池創生館B1F

参加者：市民など7名

(建築家兼大家1、建築家1、社会活動家1、不動産屋1、
環境系公益財団法人、鎌倉市)
京都市9名

③WSの流れ



③WSで出たアウトプット

対話する

- ・「古き良き」 + 「新しい」 **京都の木**の文化をつくれなにか
- ・衣や食と**セット**で考えたら？ ex) 食べることで丁寧な暮らし
- ・物件の紹介とあわせて、人とのつながりも構築できないか
- ・**建築材料**にも **京都らしさ**を入れたら？（経年劣化ではなく味の出るもの）

創る

- ① **シェア & カスタム住宅**
 - ・基本設備 + オプション（EVレンタル、菜園、共用パントリーでフードロス解消）
- ② **街中と自然の共存 × ホテルライク × 脱炭素**
 - ・烏丸御池で手ぶら入居（街路樹が豊か、スマート家電完備）
- ③ **DIYでアップサイクル**
 - ・経年で魅力が増していく「**経年美化**」なDIYは原状回復不要
- ④ **食でつながる**豊かな住まい
 - ・飲食店オーナーによる賃貸（飲食店の余りは共有orコンポストに入れ「活かす」）

③WSのねらい⇔得られた成果

ねらい1：ステークホルダー間の交流機会をつくること

- 交流の機会を得たことへの喜びを感じた参加者が多く、そもそも交流機会が少ないということを改めて認識した。
- 分野横断的に多様な人が対話することで、ふだんの仕事のなかでは想像できないアイデアがうまれた。
(建築×食とか、賃貸物件をカスタムしていくなど)

③WSのねらい⇔得られた成果

ねらい2：参加者に小さな変化を起こすこと

- 実際のプレイヤーから**すぐに実行できるアイデア**が得られた。
- **現役のプレイヤー**を呼び込めたことで、さっそく現場に持ち帰り、小さな変化を起こせそうなことに価値を感じた。

③WSのねらい⇔得られた成果

ねらい3：『2030年のアクションリスト』のブラッシュアップ

- WS内で、『2030年のアクションリスト』における「住まい」の行動として発信できるようなアイデアを収集できた。

●報告の流れ

- ① 脱炭素×建築チームについて
- ② 地球温暖化対策室のニーズ⇒WSの設計
- ③ WSで得られた成果
- ④ 地球温暖化対策室への提言
- ⑤ 脱炭素×建築チームの宣言

⑤ 脱炭素 × 建築チームの宣言

Carbon Neutral
× Architecture

「市民協働」の本質的価値は、市民主体を体現できることにある。

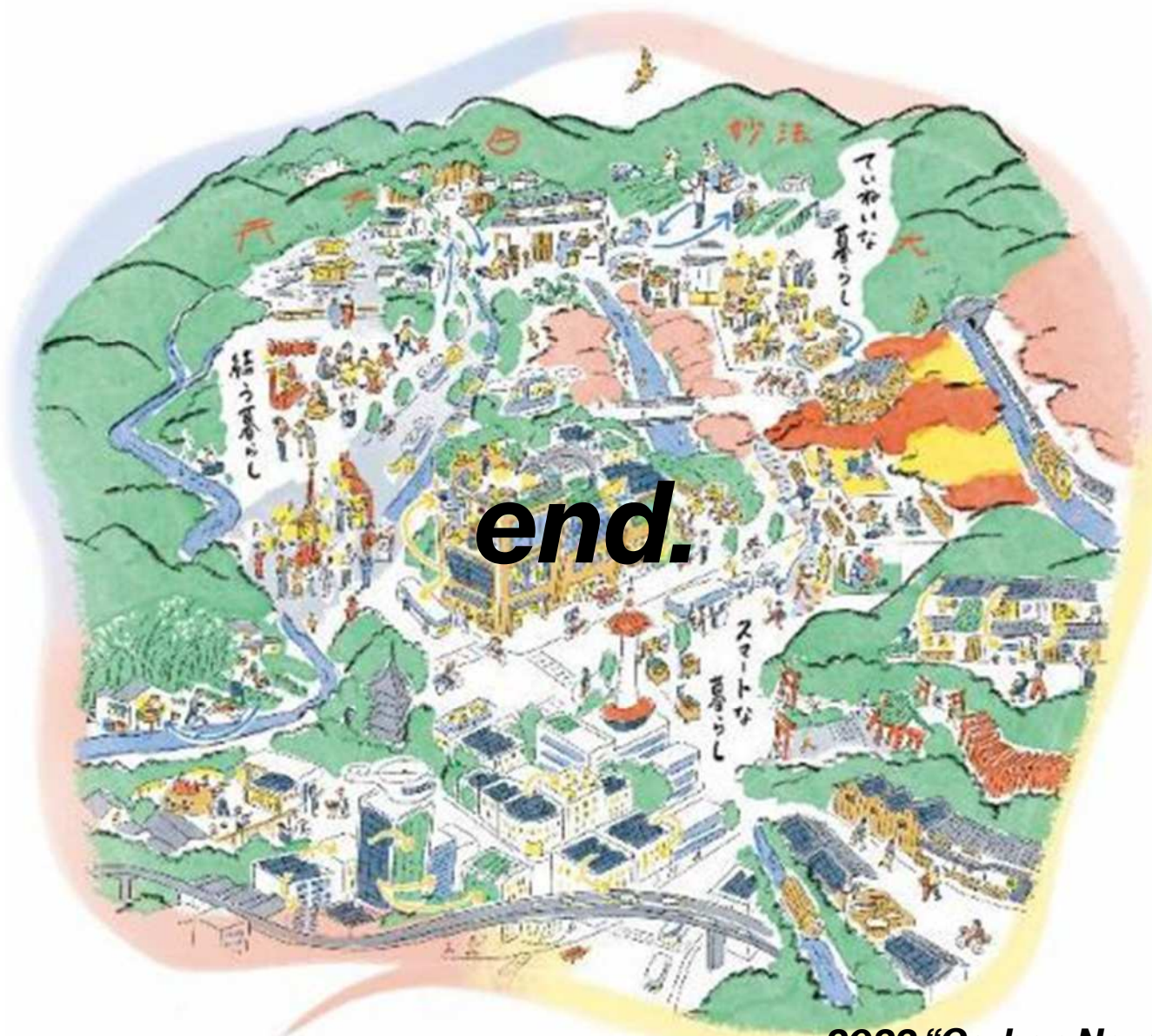
市民主体とは、市民一人ひとりが「自分ごと」として市政に関わり、自ら考え、自分たちの考えが市政に反映されていると実感できることである。

京都は1200年を超える長い歴史の中で、市民の多様な活動及び市政への参加により、自治の土壌を涵養し、世界に誇れるまちとして発展してきた。

今後も京都が持つ多様で魅力あふれるまちを発展させていくために、そして、「市民協働」の本質的価値を高めていくために、京都市は「市民協働」を単なる市民意見を集めるための手段ではなく、本当の意味で市民が主体者となれるよう、市民意見に真摯に向き合い、そこに行政としてのアプローチを見いだす必要があるだろう。

そのために、市民協働ファシリテーターを中心とし、市政課題に応じた全庁横断のチームをつくり、市民対話を続けていくことが欠かせない。

わたしたちは、その姿勢を庁内全体に有機的に拡げながら、本気で「市民協働」のあり方を変えていくことを決意して、ここに宣言する。



end.